

基礎合奏メニューの解説

すべての練習には目的と注意すべきポイントがあります。それらを正しく理解した上で練習を行わなければ、いくら練習しても上手くはならず、単なる時間の浪費につながります。そのため、ホームページに掲載されている基礎合奏メニューを導入する際には、指導される方と実際のプレイヤーの双方が、下記内容をきちんと理解したうえで取り組むようお願いします。

A 返事練習

- ・メトロノームに合わせ、いろいろなタイミングで返事をします。声を出すことで緊張感が緩和されるとともに、頭の中でテンポを取る練習や、他の奏者を信じる（声を出すのが自分だけではないという信頼）練習にもなります。
- ・メトロノームを ♩=120 にします（つまり♩=60。倍拍でカウントすることでテンポをより正確につかみ、インザッツを合いやすくします）。
- ・代表の人を1人決めます。代表の人は、「1・2・3・4」の掛け声の後、「ハイ」とは書いていない音符で「ハイ」と言います。それに続けて他の全員が楽譜の通り「ハイ」と言います（つまり1・2小節目では1・3拍目が代表の「ハイ」、2・4拍目がその他全員の「ハイ」になります）。
- ・5小節目まで「ハイハイ」を連続したら、6小節目はメトロノームを止め、全員無言で頭の中で4拍数えます。そして5拍目、つまり7小節目の1拍目で、全員で「ハイ」と言います。
- ・真剣に取り組まないと、最後の「ハイ」で必ずずれます。ずれたら合うまで何度でもやります。

B 呼吸法

- ・大体のバンドは音が短くなり、また音のリリース直前で勢い（息のスピード）が失速します。それを、呼吸の音を聞きながら指摘してやります。
- ・メトロノームを ♩=120 にします。
- ・各パートとも、低い方の音のとき、音を出す代わりに息をしっかりと吸います。次に高い方の音で息をしっかりと出します。これを楽譜の通りに進行していきます。
- ・2拍ブレス4拍吐き⇒1拍ブレス8拍吐き⇒半拍ブレス⇒8拍吐き⇒連続（8拍ごとに鋭く深いブレスをして、吐く行為を連続させる）となります。

C バランスの練習

- ・メトロノームを ♩=120 にします。
- ・1グループ（低音楽器）から4グループ（高音楽器）まで、2拍ずつタイミングをずらしながら音を重ねていきます。
- ・全体としてはユニゾンなので、ピッチを合わせることはもちろんですが、その日の合奏参加者やバンドの状態、会場の音響の状態などに注意を払い、バランスに関する指示を出していきます。

D ユニゾンコーラル

- ・メトロノームを ♩=120 にします。
- ・ユニゾンで曲（コーラル）を演奏することにより、ピッチやインザッツ、音形、バランス、フレーズ感の統一を図ります。
- ・人数が多くて合いにくいときには、パートごとや列ごとに演奏させ、合わせる意識を養います（通常は2人組のペア練習で、このユニゾンを完璧に1本に聞こえるよう毎日取り組ませます）。
- ・時にはメトロを使わず、指揮を適当に振って、そのとおりのテンポと強弱で吹かせます。なかなか面白いです。
- ・全員での演奏後、①1人1音ずつ担当して次々と奏者が変わる「リレー練習」と、②7つのパート

に分けた「ハンドベル練習」を行います(※)。①では、コーラル1の音を1人が1つだけ吹き、次の音は次の生徒・・・という様に吹かせて、それでもきちんと曲になるように練習します。②は、生徒に1から7までの番号を順番に言わせ、1の人はBだけ、2の人はCだけ、3の人はDだけ・・・という様に担当を決め、自分の担当する音が出てきたときだけ楽器を吹くという練習方法です。自分の楽器がハンドベル(1つしか音が出ない)になったような感じです。全体の流れの中での自分の音(長さや形だけではなく、和音の中の位置など)の役割を意識させます。これらの練習を通し、たった一つの音でも、長さや音形を完璧に演奏しないと、次の音にはつながらないということを徹底的に意識させます。

※①と②のやり方を詳しく知りたい方については、Top ページから直接ご連絡ください。

E スケール

・まずはB-Durでしっかりと。できれば全長調で。曲に出てくる調に合わせてやるのもいいでしょう。

F アルペジオ

- ・アルペジオはインターバル(跳躍)の大きいスケールではなく、和音を構成する音を分割して演奏するものだという説明をします。
- ・B-Durの和音を鳴らし(純正率で)、和音の中に音をはめ込んでいくイメージで練習します。意識しなければただの平均律の上下運動になり、随所で音がぶつかります。

G ハーモニー①

- ・メトロノームを♩=120にします。
- ・根音⇒5音⇒3音の順に演奏し、和音の中での役割を理解させるとともに、純正率でのピッチ感覚を養います。
- ・曲に登場する調について、同様の練習を行います。
- ・3音を半音下げることにより、単調での和音練習も合わせて行います。

H ハーモニー②

- ・メトロノームを♩=120にします。
- ・各パートが担当する音はGと同様です。根音から重ねるのではなく直接和音を演奏するため、Gよりは難しくなります。
- ・3小節目の3・4拍目はセブンスコード(F7)になります。Esの音は高めに調整します。
- ・Gと同様、3音を半音下げることにより、単調での和音練習も合わせて行います。

I コーラル

- ・メトロノームを♩=120にします。
- ・Dで登場したコーラルの正式版です。曲中でも常に和音を意識し、コントロールしながら演奏しなければならないということを確認させます。
- ・メトロノームに合わせてできるようになったら、Dと同様、メトロを使わず指揮を適当に振って、そのとおりのテンポと強弱で吹かせます。

J K 出だし(アウフタクト)の練習①・②

- ・全音階や半音階を少しずつ休符の数を増やしながら行い、あらゆる出だしやアウフタクトに対応できる力を養います。
- ・KはJよりも推進力があり、楕円運動の中に拍の感覚を見出すよう指導します。